

平成27年度 名古屋市立工芸高等学校 学校評価について

本校の教育目標

自分の道を、自分で考え、自分で選択し、自分で歩いていく生徒を育てる

本校の教育方針

- ① 広い視野と豊かな感性の育成
- ② 基礎的・基本的な知識・技術や技能の習得
- ③ 自律的に生きる人間の育成
- ④ 公共のために尽くす心、人権を尊重する心の育成
- ⑤ 社会的マナー・モラルの育成
- ⑥ 心身共に健やかで活力のある人間の育成

平成27年度重点目標について

100周年に向けた魅力と活力あふれる市工芸高校ビジョンの構築

① 時代のニーズに的確に対応した 学校経営の推進

中学校、市民、企業等のニーズに対応した、グランドデザインを示し、学校目標・方針の明確化

② 驚き・感動を実感できる工業 (ものづくり)教育の推進

企業連携や高大連携により外部の技術・技能を導入。今後は常に「自ら考える」ものづくりの推進が必要

③ 産学官・地域連携を強化した 市制貢献の推進

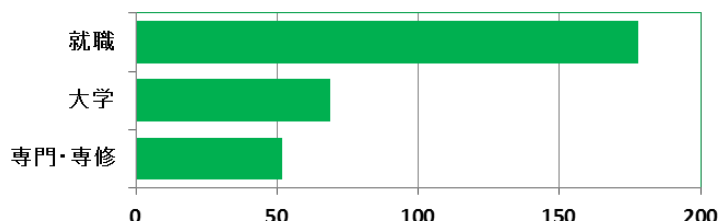
東区役所、警察署等、地域との連携により市政貢献を図った事業を多数実施。28度は、学校全体の取組としてさらに推進 <実績 次頁参照>

④ 研究成果を全国に発信し、 競技会・部活動で全国へ

技能五輪全国大会に8名の選手が出場。WEBデザイン部門で、金・銀を獲得。28年度はさらに入賞を増やし、国際大会出場を目指す

⑤ 必要な知識、技術・技能を習得し、 高い進路目標を実現

生徒の進路に対応した類型選択制を導入。就職においては高い内定率(3月時点で100%)を獲得。さらに高い目標を持たせ進学・就職実績を上げる。



さらに魅力と活力ある工芸高校を目指して

平成29年度に100周年を迎える本校は、次の100年を目指して、将来ビジョンの構築を始めている。グローバル化への対応、探求型学習の推進、アクティブラーニングへの対応や、産学官・地域連携を推進しながら、本校の特色でもあるデザイン教育の充実を図る。また、地域・企業・大学との密接なパートナーシップを確立するなど、新たな事業を模索する。

工芸高校 平成27年度 産学官・地域連携プロジェクト一覧

科	プロジェクト名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
都	矢田小学校 かまどペン 『かまど』製作		打合			設置		訓練					
イ	矢田小学校 かまどペン 『ペン』製作		ペンデザインの検討					打合決定 デザイン決定		ペン製作			納品
グ	防災かどペン パル製作						打合	パル制作					
都	建設フェア出展							出展					
都	科学の祭典出展										出展		
都	地域連携 宿泊型防災訓練					打合・準備		訓練					
情	大曾根本通商店街	WEB更新		打合		祭							
情	名和中学校WEB制作	打合				打合	WEB制作					納品	
情	愛知県高体連 ソフトテニス連盟WEB	WEB制作		納品									
イ建	徳川園宵祭り		打合		出展								
イ	名古屋聾学校 交流授業							打合		授業			
イデ	まちサ エキシビジョン								打合		体験 展示		
イ	矢田小学校 かまどペン制作		ペンデザインの検討					打合決定 デザイン決定		ペン製作			納品
グ	東区山車まつり リーフレット作成	打合		取材・打合				リーフレット制作					
グ	東区歩こう文化の道 ポスター制作	取材・打合		ポスター制作						イベント			
グ	東区区民まつり ポスター制作	取材・打合		ポスター制作					まつり				
建	東区区民まつり 大工実演						打合	実演					
グ	名市大芸術工学部 映画用ポスター制作	打合			ポスター制作								
グ	Tシャツ販促用 パンフレット制作				打合	パル制作							
デ	東区八景 ポスター制作	ポスター制作						打合	展示				
デ	東警察署 交通イラスト制作			打合	イラスト制作								
デ	東警察署 交通バス制作	打合	制作										
デ	東警察署 ぼうけん愛知			打合	制作								
デ	東区役所企画経理課 名刺制作					打合	名刺制作						
デ	東区歩こう文化の道 スタンプラリー				打合		制作						
デ	農業センター 壁画制作	打合			壁画制作				打合	壁画制作			
建	名市大芸術工学部 連携授業		打合	打合			見学会 連携授業		打合	校外見学			
建	技能講習(木型)	打合	講習	打合	講習	講習	講習	講習	講習				
建	技能講習(左官)	打合	講習				打合	練習会					
建	技能講習(大工)									講習		講習	
建	技能講習 (冷凍空調)					見学会		打合	講習	講習			

<科> 都：都市システム科 建：建築システム科 イ：インテリア科 デ：デザイン科 グ：グラフィックアーツ科 情：情報科

平成 27 年度 各部重点目標・達成状況

◆教務部

重点目標	具体的な取組	達成状況		次年度への課題
校内の学習環境の整理 自主的な学習習慣の確立、積極的な学習集団の形成を促進	防災教育・エネルギー教育・言語活動の充実を図るため、都市システム科を中心に、指導の内容・方法の研究を開始。類系選択指導において、学習と進路選択の関係を意識させた。始業式・終業式の講話を通じた、人権学習・主権者学習を実施	A	防災教育については、その成果を学力向上レポート事業として報告することができた。類系選択については、学力・適性と進路希望を踏まえて決める生徒が増加。人権教育・主権者教育については、今までの取組の中に位置付け	人権教育・主権者教育について、今までの取組の中に位置づけるとともに、新しい実践を開始
教育課程及び類系選択制度の検証 指導内容及び評価方法について各科における研究・実践を支援	新教育課程の完成年度を迎え、教育課程と類系制度の検証を開始。観点別評価については、指導と評価の一体化を踏まえ、指導の観点を意識するよう周知	B	教育課程・類系制度については、本校及び各科の進路目標のあり方と合わせて検証することが望まれる。観点別の指導・評価については、実践事例の蓄積・共有を推進	教育課程・類系制度について、本校及び各科の進路目標のあり方と合わせて検証
教育における適正手続きの観点に基づき、要学習支援生徒への指導を充実	成績不振の生徒に対しては、保護者への早期の告知を図るため、保護者宛文書の送付、保護者会・校長面談の実施。学力補充指導は、学期末だけでなく継続的な指導支援の必要性を周知	A	要学習支援生徒の指導については、保護者への早期の告知が定着。学力補充指導を含め、様々な対策を講じた結果、単位不認定の生徒は減少。成果が現れなかった生徒については、その原因を引き続き検証	学習支援の必要な生徒について、成果の現れない原因を引き続き検証

◆広報企画部

重点目標	具体的方策	達成状況		次年度への課題
安定した受検者確保のために情報を収集し分析	情報の収集 ・入試状況の分析 ・希望調査等の分析	B	限られた情報でおこなうため、正確な分析が困難	H28年度入学生の入試の結果を分析し、次年度の広報活動などに反映するように計画
校外広報活動の企画・立案を行い、関係部署との調整	・中学校訪問の企画立案 ・進路説明会、上級学校説明会の対応 ・学校案内、学校パンフレット等の製作	A	現時点での広報活動は、人員や予算を考えると達成	現在の広報活動の工夫や、他の方法を考えることも必要

◆進路指導部

重点目標	具体的な取組	達成状況		次年度への課題
生徒の適性・能力等を理解し、適切な進路選択の指導	YG 性格検査、職業レベテスト (1年自己と社会) 職業適性検査(2年) 基礎力診断テスト(2・3年)	B	それぞれの検査、テストごとにデータ解説、検証を実施	それぞれの検査、テストなどの経年変化のデータ整理及び有効活用
総合的学習の時間(自己と社会・就業体験)など、3年間を通じたキャリア教育を推進	自己と社会・就業体験・進路ガイダンスなどをもとに知識や経験を深化	A	進路決定における3年間を通してスムーズな流れを実現 就労支援アドバイザーの活用	繁忙期にも、さらにスムーズな進路決定ができるように考慮
希望する職種への就職を可能とする適切な指導	進路希望調査、進路ガイダンス、各学年面接指導、履歴書書き方講座等	A	求人が増加しており、有利に就職活動を展開	職場選定と開拓の援助、面接、基礎学力の向上
大学等の状況を理解させ、進学のための明確化 学校選択から応募から受験までの適切な指導の推進	進路希望調査、進路ガイダンス、(校内・校外)各学年面接指導、証明写真撮影指導等	A	学校選択から応募、受験までの適切な指導を実施	指定校推薦と類系選択について 入学後の学習、進路決定
公務員試験の分析や対策講座の開講等の実施	試験対策講習会の実施 3年 1学期 週1回 1・2年 2.3学期 月1回	A	本年度受講者 10名、合格者 6名	講習会参加者の学力の向上、二次試験対策

◆図書部

重点目標	具体的な取組	達成状況		次年度への課題
読書を通じて豊かな感性を育めるよう、図書の選定や広報活動など活発な図書館の運営	利用促進：図書リエンション・図書だより・図書館通信(教室掲示)・書店見学会・生徒による選書・図書委員会の活性化	B	図書リエンション1年生全クラス実施・図書館通信・たより発行・書店見学会2回実施・図書委員会の活性化(毎月定例で集まり、企画立案、実施)	図書委員会の活動は主体的に行われるようになり、活気づき利用者数も伸びているが、貸出冊数が伸び悩んでいる。次年度はより多くの生徒が利用できるよう工夫
工芸高校の学習センターとして、教科学習を支え、多様な興味関心に対応できる情報メディアの充実	教員・生徒による専門書の選書、PCをインターネット閲覧できる環境を構築	A	通年、教員・生徒からのリクエスト受付 教員に呼びかけ専門書の更新を実施 PC、インターネット接続実現	専門書コーナーの更新にはまだ、時間がかかる。本の持つ情報力を生徒に実感してもらえるような選書を学校全体で推進
蔵書データベースのIT化を進め、利便性を向上	コンピュータによる蔵書点検の実施・入力データの整備、検索機能の向上	A	IT化は完了 継続して利用予定	IT化は完了 今後の継続した微調整

◆生徒指導部

重点目標	具体的な取組	達成状況		次年度への課題
挨拶をする、遅刻・欠席をしない等の基本的な生活習慣を身につける指導の推進	登下校時の校門指導 遅刻を重ねる生徒への段階的指導	A	遅刻総数は昨年度同時期に比べ減少全校の8割が無遅刻	遅刻回数の少ない段階での、生徒への働きかけ
問題行動の早期発見・早期指導の推進	定期的な校内・校外の巡視 生徒相談係の新設 保健室・カウンセラーとの連携	A	本年度これまでに3件(3名)の特別指導、登校渋り等に保健室と連携を強化	生徒相談の体制の充実
交通安全の徹底	自転車通学者への啓発活動 無事故無違反100日ラリーへの参加	A	12月段階で事故報告6件(いずれも軽傷) 100日ラリー達成	ポイントを絞った自転車マナー指導

◆生徒会部

重点目標	具体的な取組	達成状況		次年度への課題
生徒会執行部と各委員会の連携強化と委員会活動の活性化	委員長会等を行い各委員会の連携 執行部が各委員会に参加し連携を強化	B	近隣への文化祭ビラ配りに執行部が参加 体育祭の本部運営に執行部が参加	執行部が委員会の活動に参加。次年度は各委員長会等を実施し各委員会の連携を強化
部活動の環境整備と積極的な支援、活動報告の充実	部活動の環境整備に伴う予算措置を実施	A	部室の移動を行い、利便性を向上 部活動整備費の予算増額	部室まわりの清掃が不十分であり、次年度は改善
生徒主体の学校行事と生徒会活動の充実	生徒主体で行事の企画・運営を実施	A	学校祭、球技大会生徒主体で運営	更なる生徒主体の行事運営の推進

◆保健部

重点目標	具体的な取組	達成状況		次年度への課題
健康的な生活習慣を身につけ、健康で明るい学校生活を送れるよう指導・助言	保健だより「こころの木箱」での喚起	A	健康管理を促すことで、保健室来室者が減少	保健室来室者への健康相談の充実
環境美化やリサイクル等エコ活動を充実させ、美化委員会・保健委員会を充実	ゴミの分別生活習慣アンケートの実施	A	ごみ回収時の分別の意識が向上し、可燃ゴミが減少 生活習慣アンケートにより、生活意識の向上を促進	美化委員会の更なる活動
カウンセリングの充実を図り、職員に対して障害に対する理解や校内支援体制を構築	カウンセラーとの連携サポート委員会の開催	A	カウンセラーのサポート委員会への出席により、的確な情報共有・対策を実現	職員への連絡、伝達の更なる徹底

◆総務部

重点目標	具体的な取組	達成状況		次年度への課題
分掌間の業務調整と円滑化、各種委員会の活性化	事務効率化に向け関係部署、専門委員会との連携の強化	B	選抜委員会、PTA 委員会、施設設備企画調整委員会、修学旅行検討委員会、100 周年準備委員会、人権委員会の開催	専門委員会の活性化
現職教育の充実	教育研究推進事業 2 回コースに応募し実施	A	年間 4 回実施（避難袋使用訓練、Eビッポン、マナー教室 2 回）	更なる現職教育の充実
学校全体の環境整備	設備の新規導入や更新の推進を図るとともに、修繕業務の充実	B	D 棟 2 階女子トイレに洋式トイレ工事、体育館カーテン、体育館椅子収納扉	更なる環境整備の充実
PTA 活動の活性化	PTA 活性化のために、保護者間の連携を深めるために取組みのサポートを推進	B	ティーサロンの開催場所変更、社会見学参加者増	更なる PTA 活動の活性化
情報管理（IT 係）の充実	校内 LAN 設備の充実、WEB ページの管理・更新の調整	A	スマホサイトの公開、校内 LAN 整備	サーバーの更新、校務用 PC の整備、NEW WEB サイト作成
防災教育・人権教育の充実	防災訓練の早期実施、学校安全計画の作成、人権週間に全校的取組	A	宿泊型防災訓練の実施、人権講話の実施	更なる防災教育・人権教育の充実

◆工務部

重点目標	具体的方策	達成状況		次年度への課題
各種競技大会や資格取得等の啓発を推進	技能五輪全国大会等の競技大会への積極的な参加の働きかけ 愛知県技術認定事業や全国工業高等学校長協会のジュニアマスター制度の推奨	A	測量競技県大会優勝（東海大会出場） 若年者ものづくり競技大会優勝・準優勝 技能五輪全国大会（4種目9名が出場） 優勝・準優勝・審査員特別賞を獲得	更に多くの種目で好成績を収められるように練習環境の整備が必要
学校見学会やチャレンジ教室等の計画・運営	中学校への出向、「チャレンジ教室」、中学校教員向け「学校説明会」、「工芸アーツ（学校見学会）」を実施し、工芸高校を紹介	A	「チャレンジ教室」「工芸アーツ」共に多くの中学生が参加。「学校説明会」にも多くの教員が参加	更に中学生や教員が楽しく参加できる催しを計画・運営
外部専門講師や課題研究等の発展	外部専門講師を招聘した先進的な知識・技術の習得 大学・企業・地域との連携を図った課題研究、実習の実践	A	外部専門講師の活用により技能五輪等の成績の向上 地域貢献として、地元小学校に「災害かまどベンチ」を設置し、学区の防災訓練にも参加 名市大芸工学部との連携による実習を実施 工芸高校での地域住民との連携による宿泊型防災訓練の実施	今まで以上に生徒が楽しみながら参加できる大学・企業・地域との連携を充実